

令和6年度 学力向上指導改善プラン

三田市立狭間小学校長 村岡 智行

学校教育目標		豊かな心で、自ら考え行動できる子の育成		4月		2～3月		
推進主体	学力向上推進委員会 (校長、教頭並びに学校改革、教育計画、学校評価、研究推進、生徒指導、幼小・小中連携の各担当)	学力に関する前年度の状況・経年の課題等		学力向上に向けての重点的な目標	成果となる目標	具体的な行動目標	年度末評価	
				(指標となる数値等)	(成果目標達成のための具体的な手立等)	(今年度の成果と来年度に向けた課題等)	評価	
学力的状況	全国学力・学習状況調査結果の状況(国語、算数・数学)	国語	<ul style="list-style-type: none"> 話すこと・聞くことの領域は良好な結果で、力がついていると思われる。 ◆思考・表現・読解の力を問われる問題の中で、特に書くことに対し文章を書こうとしても、条件を満たしておらず、言語能力を高めていく必要がある。 ◆注意深く問題文を読んだり、問われていることを理解したりすることができていないことで、正答できていない児童が多い。 	A 個別最適な学び・協働的な学びを意識した授業の確立	<ul style="list-style-type: none"> ◆「あて、字の流れの提示により、ユニバーサルデザインの授業づくりを推進する。 ◆「あて」を意図した振り廻りを行う。 ◆課題解決の工夫、効果的な言語活動、相互交流をおいた授業展開を行う。 ◆授業時間の工夫をする。 ◆主体的な学び(自主性を重き、探究的な学びのプロセスを大切に)する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆「字の流れの提示の仕方校内で統一し、個々が何を、どの手順でどのように学ぶかの、あて・見通しをもつて取り組むようにする。 ◆「あて」を意図した振り廻りを行うことで、高得点を目指すための、何ができようになったのかを認識し、自己課題を扱う。 ◆「あて」を意図した振り廻りを行うことで、高得点を目指すための、何ができようになったのかを認識し、自己課題を扱う。 ◆「あて」を意図した振り廻りを行うことで、高得点を目指すための、何ができようになったのかを認識し、自己課題を扱う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆多くの児童が授業に関心をもち、主体的に取り組んでいる。 ◆ホワイトボードやタブレット等の活用によって多様な授業形態を取り入れることができた。少人数グループで話し合ったり、タブレットで考えを交流したりすることで、個人・集団の思考を深めている様子が見られる。 ◆あてをきいて学習に取り組むことなどが、ふりかえりの視点や方法については全校全体での共通理解が不十分である。今後検討していきたい。 	B
	算数	<ul style="list-style-type: none"> ◆基本的な計算技能は、おおむね身につけている。 ◆数々の意味を理解したり、文を読み取り立式したりすることに課題がある。特に、比例関係を使って正しい答えを求める説明において、十分な説明や式になっていないなど、解決の方法を数学的に説明することに課題がある。 ◆日常の事象を数的に捉え、数値的に表現・処理することに課題がある。文や図から必要な情報を取り出し、活用することに苦手意識を持っている児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆基礎基本の充実 ◆言語領域、計算などの技能領域の力をつける。 ◆四則計算が正確にできる児童の割合を、90%以上に上げる。 					
定期テスト、単元テストなどによる状況(各教科)	<ul style="list-style-type: none"> ◆日ごとのドリル学習などの継続的な取り組みが、漢字や計算技能の向上につながっている。定期テスト等でも表れてきたと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆「あて」の提示について考えるのは難しいが「家」で自分自身で計画を立てて勉強しているか。課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいるか。など、学習に対する評価が低い児童の割合が高い。「自分にはよい所があるか」という問いに対しては評価が低いので、自己評価が低い可能性があるが、自己肯定感や自己有用感が低い可能性もある。 	B 思考力・表現力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ◆「あて」の提示について考えるのは難しいが「家」で自分自身で計画を立てて勉強しているか。課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいるか。など、学習に対する評価が低い児童の割合が高い。「自分にはよい所があるか」という問いに対しては評価が低いので、自己評価が低い可能性があるが、自己肯定感や自己有用感が低い可能性もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆「あて」の提示について考えるのは難しいが「家」で自分自身で計画を立てて勉強しているか。課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいるか。など、学習に対する評価が低い児童の割合が高い。「自分にはよい所があるか」という問いに対しては評価が低いので、自己評価が低い可能性があるが、自己肯定感や自己有用感が低い可能性もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆「あて」の提示について考えるのは難しいが「家」で自分自身で計画を立てて勉強しているか。課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいるか。など、学習に対する評価が低い児童の割合が高い。「自分にはよい所があるか」という問いに対しては評価が低いので、自己評価が低い可能性があるが、自己肯定感や自己有用感が低い可能性もある。 	A	
授業等からうかがえる状況(各教科)	<ul style="list-style-type: none"> ◆授業の流れとして「あて」で振り返りを意識して展開してきた。見通しをもつて学ぶ姿勢が身についてきている。 ◆学習に対して、身や受け身が随分とある。主体的な学習に取り組む子どもたちを目標とし、さらに授業改善に取り組む必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆「あて」の提示について考えるのは難しいが「家」で自分自身で計画を立てて勉強しているか。課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいるか。など、学習に対する評価が低い児童の割合が高い。「自分にはよい所があるか」という問いに対しては評価が低いので、自己評価が低い可能性があるが、自己肯定感や自己有用感が低い可能性もある。 						<ul style="list-style-type: none"> ◆「あて」の提示について考えるのは難しいが「家」で自分自身で計画を立てて勉強しているか。課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいるか。など、学習に対する評価が低い児童の割合が高い。「自分にはよい所があるか」という問いに対しては評価が低いので、自己評価が低い可能性があるが、自己肯定感や自己有用感が低い可能性もある。
学力向上に際しての課題	<ul style="list-style-type: none"> ◆「あて」の提示について考えるのは難しいが「家」で自分自身で計画を立てて勉強しているか。課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいるか。など、学習に対する評価が低い児童の割合が高い。「自分にはよい所があるか」という問いに対しては評価が低いので、自己評価が低い可能性があるが、自己肯定感や自己有用感が低い可能性もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆「あて」の提示について考えるのは難しいが「家」で自分自身で計画を立てて勉強しているか。課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいるか。など、学習に対する評価が低い児童の割合が高い。「自分にはよい所があるか」という問いに対しては評価が低いので、自己評価が低い可能性があるが、自己肯定感や自己有用感が低い可能性もある。 	C 家庭学習の習慣の確立と充実	<ul style="list-style-type: none"> ◆「あて」の提示について考えるのは難しいが「家」で自分自身で計画を立てて勉強しているか。課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいるか。など、学習に対する評価が低い児童の割合が高い。「自分にはよい所があるか」という問いに対しては評価が低いので、自己評価が低い可能性があるが、自己肯定感や自己有用感が低い可能性もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆「あて」の提示について考えるのは難しいが「家」で自分自身で計画を立てて勉強しているか。課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいるか。など、学習に対する評価が低い児童の割合が高い。「自分にはよい所があるか」という問いに対しては評価が低いので、自己評価が低い可能性があるが、自己肯定感や自己有用感が低い可能性もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆「あて」の提示について考えるのは難しいが「家」で自分自身で計画を立てて勉強しているか。課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいるか。など、学習に対する評価が低い児童の割合が高い。「自分にはよい所があるか」という問いに対しては評価が低いので、自己評価が低い可能性があるが、自己肯定感や自己有用感が低い可能性もある。 	B	
学校評価などのアンケート調査による児童・生徒の状況	<ul style="list-style-type: none"> ◆「あて」の提示について考えるのは難しいが「家」で自分自身で計画を立てて勉強しているか。課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいるか。など、学習に対する評価が低い児童の割合が高い。「自分にはよい所があるか」という問いに対しては評価が低いので、自己評価が低い可能性があるが、自己肯定感や自己有用感が低い可能性もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆「あて」の提示について考えるのは難しいが「家」で自分自身で計画を立てて勉強しているか。課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいるか。など、学習に対する評価が低い児童の割合が高い。「自分にはよい所があるか」という問いに対しては評価が低いので、自己評価が低い可能性があるが、自己肯定感や自己有用感が低い可能性もある。 						<ul style="list-style-type: none"> ◆「あて」の提示について考えるのは難しいが「家」で自分自身で計画を立てて勉強しているか。課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいるか。など、学習に対する評価が低い児童の割合が高い。「自分にはよい所があるか」という問いに対しては評価が低いので、自己評価が低い可能性があるが、自己肯定感や自己有用感が低い可能性もある。
授業改善	<ul style="list-style-type: none"> ◆「あて」の提示について考えるのは難しいが「家」で自分自身で計画を立てて勉強しているか。課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいるか。など、学習に対する評価が低い児童の割合が高い。「自分にはよい所があるか」という問いに対しては評価が低いので、自己評価が低い可能性があるが、自己肯定感や自己有用感が低い可能性もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆「あて」の提示について考えるのは難しいが「家」で自分自身で計画を立てて勉強しているか。課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいるか。など、学習に対する評価が低い児童の割合が高い。「自分にはよい所があるか」という問いに対しては評価が低いので、自己評価が低い可能性があるが、自己肯定感や自己有用感が低い可能性もある。 	D 児童理解に基づいた指導体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> ◆「あて」の提示について考えるのは難しいが「家」で自分自身で計画を立てて勉強しているか。課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいるか。など、学習に対する評価が低い児童の割合が高い。「自分にはよい所があるか」という問いに対しては評価が低いので、自己評価が低い可能性があるが、自己肯定感や自己有用感が低い可能性もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆「あて」の提示について考えるのは難しいが「家」で自分自身で計画を立てて勉強しているか。課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいるか。など、学習に対する評価が低い児童の割合が高い。「自分にはよい所があるか」という問いに対しては評価が低いので、自己評価が低い可能性があるが、自己肯定感や自己有用感が低い可能性もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆「あて」の提示について考えるのは難しいが「家」で自分自身で計画を立てて勉強しているか。課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいるか。など、学習に対する評価が低い児童の割合が高い。「自分にはよい所があるか」という問いに対しては評価が低いので、自己評価が低い可能性があるが、自己肯定感や自己有用感が低い可能性もある。 	A	
校内研究・研修の状況	<ul style="list-style-type: none"> ◆「あて」の提示について考えるのは難しいが「家」で自分自身で計画を立てて勉強しているか。課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいるか。など、学習に対する評価が低い児童の割合が高い。「自分にはよい所があるか」という問いに対しては評価が低いので、自己評価が低い可能性があるが、自己肯定感や自己有用感が低い可能性もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆「あて」の提示について考えるのは難しいが「家」で自分自身で計画を立てて勉強しているか。課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいるか。など、学習に対する評価が低い児童の割合が高い。「自分にはよい所があるか」という問いに対しては評価が低いので、自己評価が低い可能性があるが、自己肯定感や自己有用感が低い可能性もある。 						<ul style="list-style-type: none"> ◆「あて」の提示について考えるのは難しいが「家」で自分自身で計画を立てて勉強しているか。課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいるか。など、学習に対する評価が低い児童の割合が高い。「自分にはよい所があるか」という問いに対しては評価が低いので、自己評価が低い可能性があるが、自己肯定感や自己有用感が低い可能性もある。
校内研修の状況	<ul style="list-style-type: none"> ◆「あて」の提示について考えるのは難しいが「家」で自分自身で計画を立てて勉強しているか。課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいるか。など、学習に対する評価が低い児童の割合が高い。「自分にはよい所があるか」という問いに対しては評価が低いので、自己評価が低い可能性があるが、自己肯定感や自己有用感が低い可能性もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆「あて」の提示について考えるのは難しいが「家」で自分自身で計画を立てて勉強しているか。課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいるか。など、学習に対する評価が低い児童の割合が高い。「自分にはよい所があるか」という問いに対しては評価が低いので、自己評価が低い可能性があるが、自己肯定感や自己有用感が低い可能性もある。 	E 社会に開かれた教育課程を支える風土の醸成	<ul style="list-style-type: none"> ◆「あて」の提示について考えるのは難しいが「家」で自分自身で計画を立てて勉強しているか。課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいるか。など、学習に対する評価が低い児童の割合が高い。「自分にはよい所があるか」という問いに対しては評価が低いので、自己評価が低い可能性があるが、自己肯定感や自己有用感が低い可能性もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆「あて」の提示について考えるのは難しいが「家」で自分自身で計画を立てて勉強しているか。課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいるか。など、学習に対する評価が低い児童の割合が高い。「自分にはよい所があるか」という問いに対しては評価が低いので、自己評価が低い可能性があるが、自己肯定感や自己有用感が低い可能性もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆「あて」の提示について考えるのは難しいが「家」で自分自身で計画を立てて勉強しているか。課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいるか。など、学習に対する評価が低い児童の割合が高い。「自分にはよい所があるか」という問いに対しては評価が低いので、自己評価が低い可能性があるが、自己肯定感や自己有用感が低い可能性もある。 	A	
家庭・地域等の状況	<ul style="list-style-type: none"> ◆「あて」の提示について考えるのは難しいが「家」で自分自身で計画を立てて勉強しているか。課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいるか。など、学習に対する評価が低い児童の割合が高い。「自分にはよい所があるか」という問いに対しては評価が低いので、自己評価が低い可能性があるが、自己肯定感や自己有用感が低い可能性もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆「あて」の提示について考えるのは難しいが「家」で自分自身で計画を立てて勉強しているか。課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいるか。など、学習に対する評価が低い児童の割合が高い。「自分にはよい所があるか」という問いに対しては評価が低いので、自己評価が低い可能性があるが、自己肯定感や自己有用感が低い可能性もある。 						<ul style="list-style-type: none"> ◆「あて」の提示について考えるのは難しいが「家」で自分自身で計画を立てて勉強しているか。課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいるか。など、学習に対する評価が低い児童の割合が高い。「自分にはよい所があるか」という問いに対しては評価が低いので、自己評価が低い可能性があるが、自己肯定感や自己有用感が低い可能性もある。
校種間連携	<ul style="list-style-type: none"> ◆「あて」の提示について考えるのは難しいが「家」で自分自身で計画を立てて勉強しているか。課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいるか。など、学習に対する評価が低い児童の割合が高い。「自分にはよい所があるか」という問いに対しては評価が低いので、自己評価が低い可能性があるが、自己肯定感や自己有用感が低い可能性もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆「あて」の提示について考えるのは難しいが「家」で自分自身で計画を立てて勉強しているか。課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいるか。など、学習に対する評価が低い児童の割合が高い。「自分にはよい所があるか」という問いに対しては評価が低いので、自己評価が低い可能性があるが、自己肯定感や自己有用感が低い可能性もある。 	校種間連携	<ul style="list-style-type: none"> ◆「あて」の提示について考えるのは難しいが「家」で自分自身で計画を立てて勉強しているか。課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいるか。など、学習に対する評価が低い児童の割合が高い。「自分にはよい所があるか」という問いに対しては評価が低いので、自己評価が低い可能性があるが、自己肯定感や自己有用感が低い可能性もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆「あて」の提示について考えるのは難しいが「家」で自分自身で計画を立てて勉強しているか。課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいるか。など、学習に対する評価が低い児童の割合が高い。「自分にはよい所があるか」という問いに対しては評価が低いので、自己評価が低い可能性があるが、自己肯定感や自己有用感が低い可能性もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆「あて」の提示について考えるのは難しいが「家」で自分自身で計画を立てて勉強しているか。課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいるか。など、学習に対する評価が低い児童の割合が高い。「自分にはよい所があるか」という問いに対しては評価が低いので、自己評価が低い可能性があるが、自己肯定感や自己有用感が低い可能性もある。 	A	
小・中における教科連携等の状況	<ul style="list-style-type: none"> ◆「あて」の提示について考えるのは難しいが「家」で自分自身で計画を立てて勉強しているか。課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいるか。など、学習に対する評価が低い児童の割合が高い。「自分にはよい所があるか」という問いに対しては評価が低いので、自己評価が低い可能性があるが、自己肯定感や自己有用感が低い可能性もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆「あて」の提示について考えるのは難しいが「家」で自分自身で計画を立てて勉強しているか。課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいるか。など、学習に対する評価が低い児童の割合が高い。「自分にはよい所があるか」という問いに対しては評価が低いので、自己評価が低い可能性があるが、自己肯定感や自己有用感が低い可能性もある。 						<ul style="list-style-type: none"> ◆「あて」の提示について考えるのは難しいが「家」で自分自身で計画を立てて勉強しているか。課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいるか。など、学習に対する評価が低い児童の割合が高い。「自分にはよい所があるか」という問いに対しては評価が低いので、自己評価が低い可能性があるが、自己肯定感や自己有用感が低い可能性もある。